

令和3年 飯田市教育委員会7月定例会会議録

令和3年7月13日（火） 午後2時 開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	湯本 正芳
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長	馬場 保之
文化財施設整備担当専門幹	関島 隆夫
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	久保敷 武康
学校教育課長補佐兼教育企画担当主幹	竹村 公彦
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和3年飯田市教育委員会7月定例会を開会いたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程の第2、会期の決定、今月の会議、本日1日とさせていただきます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員、北澤正光教育長職務代理者をお願いいたします

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、6月定例会の会議録、お示しましたとおりでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは承認ということでよろしくをお願いいたします。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

本日はA4、1枚にまとめさせていただきましたので、報告させていただきたいと思いません。

今年度、教育委員会の1つの大きな取り組みとして、少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組ということで研究会を昨年度立ち上げ、現在はコミュニティスクールの学校運営協議会でそれぞれ説明しているという状況です。

これに至るまでに校長会等で、果たして意見が出るのかなとか、逆に言うと、もういきなり統廃合の話とか、そういうふうには振り切れちゃって、過激になっちゃうんじゃないかという心配はありましたけれども、現在一学期中ということで25回、というのは合同でやる場所もあるので、28校25回が計画されていますが、昨日の段階で20回、終了させていただいたところではあります。

私自身はなるべく出るようにして、半分の9のコミュニティスクールに参加をさせていただきましたが、率直な感想としては「良い話し合いができてるな」さすが飯田市っていうか、やっぱりその「考えてください」って言ったら、まさに我がことのように学校のこと、子供たちのことをしっかりと考えていただいた発言が多いなというふうに思っています。

②番に書きましたけれども、もちろんハードのこと出ます。ハードというのはあり方、学校の今後の一緒になるとか、分かれていた方がいいとか、地区ごとことここが一緒になるんじゃないか、学区の問題、そういうハードももちろん出ますけれども、その冒頭で私のほうも、「まずは最初に子供たちが今後どうあるべきか、目指す子供像を語りながらそれぞれの特徴ある学校づくり、ブランドづくりの話も話題にしていきたい」というような話を申し上げると、やはり広く考えていただいて、プラスの意見というか本当に子供たちを思った発言が多いなとそんなふうに感じています。

若干、私が印象に残ったところを書き出したものを見ていきたいですが、三穂小学校、一番最初だったのでどんな話し合いになるのかなと思っていましたが、もうあっという間に1時間過ぎました。その中で、やはり地区中で教育を考えるためには移住定住政策も一緒に考えるべきで、魅力ある教育をすることによってこのまち、三穂を活性化すべきっていう視点が大事じゃないかと。1人1人の目の届く教育と同時に合同の複数年、2学年学習みたいなものをもっと積極的に取り入れていくべきじゃないかと。こんなご意見をいただきました。

また、座光寺小学校のほうでは、やはり初めてデータを見ると、座光寺小学校の状況や飯田市全体のことがわかって良かったということと、やはり10年後、さらには30年後を見据えた子供の将来像っていうのを今からしっかり考えていく必要があるんじゃないか。

浜井場小学校のほうでは、ちょっと今までのほかの地区とは違って、ときがちょっと遅いんじゃないかというようなご意見もいただきながらも早め早めの対応が必要、ただその早め早めと言いつつ1番は子供たちの教育を考えることではないかと、こんな意見も別の視点、軸からいただいています。

旭ヶ丘中学校区では、校舎の老朽化やまた子供たちの人数が激減しないということもあるんですけど、逆にそれを逆手にとって、今すぐ何かっていう状況ではないからこそ、今から子供たちのことじっくりと腰を据えて考えていくべきじゃないかと。さらには小中の話じゃなくて、幼保も含めないとこの議論は成り立っていかないんじゃないかと言うようなご意見。

さらには、丸山小学校は浜井場と少し似た議論で、先延ばしができないので子供たちのためにも議論をもっと早く進めるべきじゃないかというようなご意見。

竜東中学校の、逆に言うとその話の中には、今の現状の子供たちを見てみるとコミュニケ

ーション能力が弱いんじゃないかと。高校行ってその力の差が出てくるという声も聞くと。であるならば、中学校時代までにコミュニケーション能力をもう少し育める学校をつくる。さらにはいろんな形がありつつ、これからの時代がもっと人間性を育むということが一番大事じゃないか。こんなご意見もいただいています。

これは私の主観でピックアップしていますし、これがすべてではないんですけども、いずれにしろ今年度の飯田市の状況をすべての学校運営協議会の委員の皆さんに理解し始めていただいているのは良い機会だな。二学期はこれをもとにどういうふうに広げていくか。意見を広げていくかなと思っています。今年度は意見の収れんとか、方向性の確定とかを一切しないので、何でも自由にご発言くださいというのがベースなので、フランクな意見が出てくるかなと思いますが、これを第2回目ではさらに広げて行きたいなというふうに感じているところです。

裏面をめぐっていただいて、今年度より新市長になって市政懇談会という呼び方じゃなくして市長と語るまちづくり懇談会ということをしています。私も教育問題があればそこで回答するというような形をしておりますが、市側からの一方的な説明の時間を短くし、なるべく対話、シナリオ通りの対話じゃなくてもいいので、その場の意見を吸い上げるという新市長の雰囲気や思いが伝わった制度に変わっているかなというふうに思っております。なので、どんどん意見が出ます。私自身は逆に気をつけなきゃいけないのは、どんどん意見を言うので、しっかりと取りこぼさずにこっち側が受けて止めて対応策なり回答を考えていかないと1年後に「あれ前に言ったんだがどうなっているんだ」ということがないようにしなきゃいけないな。そんなふうに思っています。

詳細はこの3地区のものを挙げさせていただきましたが、やはり先ほどコミュニティスクール学校運営協議会での少子化における話題と連動して同じような質問がまちづくり懇談会でも出ます。ただこれが逆に言うと、学校運営協議会で意見交換をさせていただいていますので、是非コミュニティスクールと連動しながらこのあり方を考えていきたいということを説明しています。

また、まちづくりが学校づくりになるので、先ほど三穂の学校運営協議会で出たように、やはりこの学校の問題はまち全体のあり方も考えなきゃいけないし、飯田市全体としても子育てしたいというまちにすべきじゃないか。こんなご意見もいただいています。

さらには、今、千葉の八街市での交通事故の事案を受け、通学路のもう一度さらなる安心・安全の確保をしていただきたい。こんな要望をいただいていますので、いただかなくともですけれどもしっかり対応して行きたいと考えています。

3番目、複数種目体験イベント、これ全市型競技別スポーツスクールの今年度から新しい試みで、複数種目体験できますよという体験イベントを行いました。

竜峡中学校、天候にも恵まれて外での開催もできたんですが、12名の生徒が参加をしました。最初の1次締め切りが6月くらい末まではゼロだったので、これはなかなかやっばり難しいな。とにかく実感値としては新しいことを始めることは難しいし、しかも同じ部活動はなるべくやめましょうねという、要は新しいスポーツ機会に触れるというコンセプトでやっているの、それをどう伝えるのかっていうなかなか難しいなというふうに思いながらも、集まった子供、女性が10人、男性が2人だったんですが、バドミントンになると俄然意欲を發揮、生き生きとする子供がいて、「私、バドミントンやってみたいんですよ。」と応えてくれました。

それは文化部の女の子でしたが、決してスポーツが得意という子ではありませんでした。ただ自分の学校にないスポーツを竜峡中学校に来て体験したいと、こんなようになるんだなと思って、可能性と難しさを両方感じたところでもあります。

また、8月にもこういうイベントをしながら、飯田市としては中学校の部活動の時間の適正化プラス豊かな選択肢のある社会体育というものがうまく連携できる教育環境っていうのを是非つくって行きたいし、これら少しずつスタートしているのでご承知おきとまたお力添えをいただきたいなと思います。

最後に、昨日、非常に印象的だったのでちょっとご報告をさせていただきたいと思います。私自身が飯田高校の評議会の評議員のメンバーになっていて、飯田高校の授業を見る機会がありましたので、飯田市の中学生が卒業した後、高校でどんなふうに勉強しているのかと興味深く授業を見てきました。

わずか1コマなので30分余ですので、子供たちの様子をその間で一括りにするのは大変失礼かと思うんですが、基本的には一生懸命勉強しているなど、居眠りしている子ってほとんどいないんですよ。本当に勉強しているな。

ただ、中学校の授業から比べるとやはりまだスタイルとしては一斉授業、黒板の一斉授業になるので1人でメモを取ったり問題解いたりということで、もう少し積極的なやりとりがあるといいなと思いますが、繰り返しですが1コマしか見られないので何とも言えません。

その後の懇談会のほうでは、iPadを今年度から導入しています。いわゆるBYODという、保護者が負担をしてiPadを買ってそれで授業で使うということで、iPad自身は、私は授業では使っているところは見ませんでした。

「どんなふうに使っているんですか」という質問を学校にすると、今、例えば大学の説明

会とか、研修会とか、いろんな授業も出ているので、そういった動画を視聴するっていうのがまず1つ始めているということです。

飯田市も積極的にやっているように、クラウドを使って意見交換をすることかというところまではまだまだ教科によっては違う、差が出ているなということを校長先生のお話からあり、実は来年度から高校も新しい学習指導要領に変わっていくので、その準備としては、これ校長先生がおっしゃっていたんだけど、先生方の意識は随分変わり始めている。要は一斉一律の授業ではなくて、まさに主体的・対話的な深い学びっていうものに向けて地域に根ざすとかいうことの意識は変わっているので、是非、卒業生が高校行ったらつまらなくなったと言われぬようにやって行きたいし、私自身は逆にいうと、その高校生でもっともっと伸びしろがあるような義務教育9年間をやっていかないといけないので、高校との連携って改めて大事だなと。

お互いが知らずにやっているというよりは、ここまでICTや探究の学習が進んでいるのでこういうふうに使っていきたい。こんなものが組織的に行われているといいな。そんなことを強く思いましたし、少しずつ思っただけじゃなくて実践に移して行きたいなど、そんなふうに思いましたので、ここで報告させていただきたいと思います。

私のほうからは以上です。

ご質問、ご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

日程第6 議案審議（3件）

○教育長（代田昭久） それでは続きまして、議案審議のほうに移ります。本日の議案審議、3件あります。

議案第52号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長（代田昭久） 議案第52号、「学校運営協議会委員の任命について」をお願いします。

桑原課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第52号「学校運営協議会委員の任命について」をお願いいたします。

令和3年度の学校運営協議会の委員として学校長から追加の申請がありましたので、飯田市学校運営協議会規則の規定に従いまして、任命していただきたいとご提案を申し上げます。

追加の申請は、高陵中学校において記載の2名を追加したいものでございまして、これはPTAの一年と二年の学年代表がこのたび決まったということで追加推薦があったもので

ございます。

任期につきましては1年間、今年度末までということでございます。

以上でございます。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第52号の説明がありました。ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでお願いいたします。

議案第53号 学校医の任命について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第53号、「学校医の任命について」お願いします。

桑原課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第53号、「学校医の任命について」お願いをいたします。

学校保健安全法の規定に基づきまして、学校医を任命したいものでございます。

学校名、氏名、住所、備考（勤務先）につきましては、記載のとおりでございます。

こちら、上村診療所の医師が交代したということで、後任の医師に学校医を任命したいとするものでございます。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第53号の説明がありました。ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第53号、承認ということでお願いいたします。

議案第54号 令和3年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第54号、「令和3年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いします。

桑原課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい、それでは議案第 54 号、「令和 3 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いをいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にて認定をいただきますよう提案申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま、議案第 54 号の説明がありました。ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第 54 号、承認ということをお願いいたします。

日程第 7 協議事項

○教育長（代田昭久） それでは続きまして、日程第 7、「協議事項」に移ります。

（1）令和 3 年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組」について

○教育長（代田昭久） 協議事項は、令和 3 年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組」についてです。

事務局より説明をお願いします。

竹村教育企画担当主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） 資料 No. 1 の 7 ページでございます。よろしくお願ひいたします。

冒頭の教育長報告でも、教育長のほうから報告をいたしましたけれども、担当の私のほうから一学期の意見交換、学校運営協議会の意見交換について、経過報告をさせていただきたいというふうに思います。

一学期の学校運営協議会では、先月こちらの場所でも説明をさせていただきましたが、あの資料で各学校を回っておりまして説明をしております。

その資料を持ちまして各学校の現状、生徒数ですとか校舎の状況を説明し共有をさせていただいた上、学校ですとか子供に対しての学びについて思うところを結論ありきではなくて自由に出していただくということで進めてまいりました。

教育長も申し上げましたが、意見というのが担当のほうでも思っていました、前向きな意見がたくさん出ておまして、やって良かったなというような感想をもっております。

それぞれ学校では1時間程度、1時間前後の会議ということでやらせていただいております。以下、その場で出た意見を、ほんの一部でありますけれども、ご紹介させていただきたいと思います。

6月14日の浜井場小学校までは、先月の定例会のほうで報告させていただきましたので、若干ちょっと振り返りも兼ねて進めたいと思いますけれども、5月20日の遠山3校につきましては、遠山の3校はこの課題に対して3校合同で学校運営協議会をつくって対応していくということになりました。その場で出たことはやはり移住定住、地域の人口を増やすこと、あと教育移住を進めていかないとだめだというような話が出まして、全体会ではちょっとメンバーが多かったということもありまして、準備会をつくって進めていきたいと思いますということもこの日に決まりまして、その準備会が6月9日に行われました。そこではやはり移住定住の話が中心になったんですが、和田小では今年度から親子留学を推進していく、そんなような話も伺いました。この準備会の意見を取りまとめて、今度7月21日ですが、遠山3校の全体会がもう1回ありまして、準備会のほうから報告をしていく。そんな段取りになっております。

それと6月14日の浜井場小ですが、浜井場小の場合は、やはり追手町との統合・合併の話ですとか、東中もいわゆる小中一貫校、そんなような話が委員の皆さんのほうから出てまいりました。そういうハードの部分の話もあったんですが、建物も大事だけど、1番は子供たちの教育を考えてあげることです。原点に引き戻されるような話もあったりして、良かったなというように思っております。

6月18日、東中です。東中でも、やはり追手町と浜井場を交えた小中一貫校の話まで、これも委員の皆さんのほうから出てきました。また、逆に今、市がこれを出してきた意味がわからん。生徒が減って何が悪いのかというような、正反対のような意見も出てまいりましたが、今年度は自由に意見出してくださいということで進めておりますので、そういった意見にも耳を傾けながら進めていくのかなというふうに思っております。

続きまして竜峡中です。竜峡中はやはり地域の魅力ですとか活力を上げて、そんなような話がありました。あと個別の課題といたしまして、中学校区の話も出てまいりました。

旭ヶ丘中学校では、大体1時間前後の会議だったんですが、旭ヶ丘中は1時間半にわたってやっていただきました。先ほども教育長からも出ましたが、まだすぐに統合という状況ではないので、それを逆手にとって今から準備していくべきだとか、教育の中身をまず考えないと人数とか箱物は決められないんですよ。そんなような話も出ました。

次の丸山小・西中につきましては、こちらでは東中学校のサッカーの部活が、現実には年度

前に廃部になったというようなことがありまして、そういうことの西中としての思いといますか受け止め、危機感として受けてまいりました。あと先ほども出ましたが、先延ばしだと子供たちが1番不幸になるので進めて行かざるを得ない課題だということも出ました。

鼎小中につきましては、小学校・中学校がもう既に1つの学校運営協議会ということで今までも進めてきておりまして、その強みを生かしてこれから考えていく。校舎も小中が1つでもかまわないだろうし、さらに公民館なども複合化も考えてもいいんじゃないかというような話も出たりしました。

あと義務教育学校のように、小学校6年と中学3年の縦のつながり、あとICTを活用した複数校合同授業、横のつながりということで縦横から考えて行くべきじゃないか。これは校長先生から出たんですが、こんな話も出てまいりました。

それと竜東中につきましては、竜東中のように生徒の少ない学校から高校へ行ったときの不安が親御さんとしては大きいのかなと、そんな感じの意見が出ました。コミュニケーション能力がちょっと弱いんじゃないか、そんなような話が出ました。あと特色ある学校づくりとはというような話題にもなりまして、学力だけを育てていくのであれば塾でかまわない。特色ある学校づくりというものは、人間を育てるには大事なことじゃないかと、そんなような話し合いもできました。

あと上郷小につきましては、上郷小の喫緊の課題であります児童館、児童クラブについての話し合いが行われました。

これ以降も、昨日まで何校かと意見交換をしておりますけれども、ちょっと資料の作成の都合で、また来月にはすべての学校の報告ができると思います。

それから7月21日には、一学期のすべての学校運営協議会の意見交換が終るということで今進めておりまして、8月26日にこの取り組みに対する研究会を開催させてもらって、意見の報告や今後の進め方などについて協議をしていただきたいと思います。と思っています。

以上が途中経過でございます。よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま報告がありました。委員の皆さんより質問ご意見等ありましたら、お願いいたします。

北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 例えば三穂小のところで、学校運営協議会だけの協議で良いのか、逆にいうと、もっと広く保護者や地域の人に知らせて、地域全体の関心や意識を高めて行くべきだというご意見だと思います。そうしたところで、今後さらにこれを広めていくと

したときに、学校運営協議会だけじゃなくて、保護者にも資料を配るといような方向は事務局として考えているものがあるのでしょうか。

○教育長（代田昭久） はい、竹村主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） 保護者に対してのこの資料につきましては、今、全部の保護者に、9月に配布できればいいかなというふうに思っています。それと話はメンバーといいますかなんですが、今、学校運営協議会ですけれども、三穂小ですとか、ほかからも保護者の方を呼ぶべきだとか、もっと地域の方を入れるべきだとか、そういう意見が出ます。ですので、そういったことも学校運営協議会の中で、うちの地域はこういう人を入れたらいいんじゃないかみたいな、そういう話し合いもできて決めていただけたらなあ、一緒に話し合いができたらなと思っております。

○教育長（代田昭久） 学校運営協議会を行う前に事前にすり合わせをして臨んでいます。例えば三穂だったら、私、個人的に今思っているのは、三穂の中でもっと保護者を、アンケートとかどうしたらいいのかというのがあったので、もし例えばですけれども、三穂であれば、その学校運営協議会の事前協議の中で、保護者の意見をもう1度聞こうという意見があったら、実際にアンケートを採ったりとか、ここの場に保護者をもうちよっとな入れてみてやってみようだとかっていうのは、多分学校区ごとのコミュニティスクールの事前協議等、それをまたかけてもう1回やってもいいと思うので、これは逆にいうと、一律にじゃあ今度、保護者全部出ましようっていうふうにもならないのかなと。むしろ第1回で出たそういった意見を尊重しながら、それぞれの地区の実情に合った広め方というのものもあるのかなと思っています。

いずれにしろ、一旦、出来上がってくるのを見て、研究会でどんなふうに進めましようかっていうプロセスがあります。

ほかに、いかがでしょうか。

上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） それぞれの地区ごとに多くの意見が出されたということで、皆さんと一緒にこういった問題が共有できる機会、どんどん進んでいるんだなというふうに読ませていただきました。

今後、その地区ごとの出た課題の中に即して、保護者を入れようとか、アンケートを採ってみようかというような感じで進んでいくということですので、より一層その意見が深まっていくんじゃないかなあと、すごく時間はかかるけれどもみんなが納得して話を進めていける方向になっているのかなあというふうに思います。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

はい、三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 飯田東中で出た意見の中に、生徒が減ることによりどんな弊害があるのかという意見があったというようなことですが、この意見を受けて、ほかの方がどんな意見を言っていたのかというところ、ちょっと知りたいんですけど。

○教育長（代田昭久） はい、竹村主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） 今回、一学期の意見交換はその場で意見を戦わせて結論ですとか、そういう会議じゃありませんので、その東中のときも意見いただいてお聞きをしてきた。意見をいただいただけで回答とかはしてない状況です。

○教育長（代田昭久） 三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） この意見を受けて、ほかの方はこのことについて何も特には言われなかったという。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） その場ではなかったです。

○教育長（代田昭久） 松下参与、お願いします。

◎参与（松下 徹） 私も同席していました。意見交換をしなかったんですけど、ほかの委員さんから手が挙って、「今日は課題をみんなで出し合う場なんで、協議は踏み込まないようにしましょうね」という意見が出て、そういうところで終わりました。別の委員さんからは、具体的な枠組みとして小中一貫校みたいな話も出ていますので、いろいろな意見があります。

◇教育委員（三浦弥生） はい、わかりました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、これ今後もまた、ここの定例会のほうでご報告、また協議事項等でお話をさせていただきたいと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第8、陳情審議。

今月の陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9、「その他」。

（1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 「教育委員報告事項」、教育委員の皆さんより報告事項お願いします。

上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 7月7日に西中のPTA講演会に参加いたしました。

ペップトークオンライン講演会というもので、ペップトークというのは初めて聞かれる方もいるんじゃないでしょうか。誰かを応援するショートトーク、本領を発揮するためのトークだそうで、大事な試合の前とかに監督がみんなを集めてちょっとするトークのようなものを言ったりするそうです。

その方法によって「なでしこジャパン」も優勝をしたというような話、そのショートトークは「思いっきり楽しんでこい」っていう佐々木監督のペップトークであったというような話から始まって、その方法は、受容して、承認をして、それで行動してほしいことを伝えて激励するっていうような方法だということを教えてもらいました。

先生は、浦上大輔さんという日本ペップトーク普及協会を立ち上げた方でした。

そのペップトークを取り入れて東京都の少年野球チームが、それまで1～2勝しかしてなかったのに7回も勝ち進んで優勝したというような実話も聞きました。監督が子供たちを信じて諦めないで夢を持って、このペップトークっていう応援トークで応援していった結果であるということで、浦上さんいわく、大人もまず自分をペップトークで自分を応援することも大事だというようなことでした。

保護者としても、そういったお話を聞くことで明るい希望のあるような気持ちになりましたし、これは子供たちも聞いていました。中学生時代にこういう希望のある話を大人が話をしてくれたこと、その内容もとっても元気が出るようなものであったことから、子供たちにとってのそういった言葉掛け、言葉の持つ力というのを再認識させていただく機会になりました。

以上、ペップトークのご報告をさせていただきました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。

北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 6月24日ですけど、浜井場小学校の主幹指導主事訪問に帯同して学校訪問をさせていただきました。

浜井場小学校では、さっき冒頭で中学生期のスポーツ活動のあり方につながる事なのですけれど、2時間目と3時間目にある業間休みに全校で「スポーツタイム」というのを実施していて、例えば追手町小学校では、朝10分間、全校一斉のマラソンというのをもう何年も続けて取り組んでいるのですが、浜井場小学校の場合は、走る、女の子も含めてボール投げ、体幹ストレッチを学年ごとに曜日を決めて、1週間の中でそういったものを全部やるっていうことになりませんが、曜日と学年、場所をローテーションして取り組むようなやり方をされています。

実際、それを見させてもらおうと女の子でも結構器用に投げる子もいるし、投げる動作は日頃少ないので不器用な投げ方をしているが、まったくやらないよりは、少しずつでも変わっていくんじゃないか、取り組んで3年になるそうですが大分変わってきて、その効果として、とにかくよく遊ぶ。私がうかがったときには給食の後のお昼休みでしたが、子供たちが外に出て、怪我を心配するくらいよく遊んでいた。若い先生方も何人も出てきて一緒に遊んでいるというのがとっても印象的でした。冒頭の協議会のときの話とこれはつながっていくのではないかと思います。

要するに、スポーツ、スポーツと真正面から行くより、スポーツ以前に、体を動かすと楽しいとか、遊びの中から培っていくようなことがあるのではないかと思います。

それからもう1つ、浜井場小学校でとっても印象に残ったのは、小学校一年生から六年生まで、授業の中では、いろんな場面で「聞く・話す」という基本的な学習姿勢を本当に丁寧に、繰り返し指導していたことです。浜小ドリルといのをもう10年以上続けている。中身は算数なのですが、実は言語活動をすごく大事にしている。自分がこの問題をどういうふうと考えて「ここまでやれたんだけどどう」って、友達と説明し合う場面をすごく大事にしていて、これも大事な部分だなと思いました。

最後、言語活動ということですが、今年、校長先生がお替わりになったのですけれど、初任者、養護教諭、事務の先生等々、個別にお話を伺ったとき、それぞれに皆さんが言葉を揃えて校長先生がよく話を聞いてくれるっていうふうに答えたんですね。これもとっても大事なことを示唆されているなと思いました。

本当に多様なお子さんが通学している浜井場小学校ですけれど、まず聞く・話す先生方もそれから子供たちも丁寧にできる状況にあるということがとっても大事だなと思いました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） ちょっと北澤先生、余談で山本小学校は朝の運動を止めましたよね。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 止めましたね。

○教育長（代田昭久） 止めて、それで体幹トレーニングみたいなことを休みにやっている。北澤先生からも是非感想いただきたいと思うんですけど、やはり各学校の事情によってうまくやるといことがすごく大事だなと。本当にもう集中し過ぎて1～2時間目が潰れちゃうという中で新しい取り組みをしています。

また、川路小学校は、これはスポーツ協会と連携してディナーショントレーニングを3年くらいやっていて、なので、本当に飯田市の特徴としては、各学校でスポーツ、また体力づくりに取り組んでくださいっていうと、それぞれがそれぞれの形で進めている。朝マラソンのところもあれば、また逆にやって違うところもある。そんな実態もあるので、そこは校長先生の判断もあるし、学校の力、それぞれの力を引き出すことが教育委員会かなと思いがらいますが、もしも補足があればお願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 前も確かこの会で発言させてもらった覚えがあるんですけど、浜井場小学校でも、前は朝走るだけだったんですよ。こうやってスポーツタイムを取り入れてきてからの体力テストの結果と以前のを比較ができるかどうかなんですけど、データとしてある程度裏付けていくものがあるといいなと思います。結果の違いを見てみたい気がするんです。

それから山本小の例が出たのですが、山本小も3年くらい前までは朝マラソンで走るだけだった。それで一日をスタートすると、朝の会と1時間目に子供たちが落ち着かなくて、汗かいたままテンションが上がったままでざわざわして1時間目に入っていきので、「これは良くないね」っていうことになって、朝は静かに読書しながら先生は子供たちの様子を丁寧把握し、その代わり体育の時間の冒頭のところで、体幹トレーニングを入れてやってくように変えて、学校としてはすごく落ち着いた。良くなったっていうのが学校の評価なんですけど、そういうようなものも比べて見たいなっていう気はするんですね。

昔の話をいうと変ですが、数年前までだと、中学校も全校体育っていう形で全校運動を10分間とか、全校一斉で体を動かす時間が持たれているのが、当たり前のようであった。完全5日制になり、学習指導要領が変わって授業時数が増えたなどいろんな事情の中で結局そういう時間はすべてなくなってしまった。遠足や登山も縮小され、クラスマッチも少なくなり、体育の時間以外は体を動かすことがほとんどないような今学校の形になってしまっている。その辺もちょっと考えさせられる部分だになっていうふうに思います。

○教育長（代田昭久） はい、三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 今のお話を聞いていて思ったのが、これから暑いので熱中症の時期になつたりするところで、その季節の気温ですか、そういうところに体を段々慣らしていくって言うそういうことって言うのがすごく大切と、何かそんなところを思ったときに、定期的な、それも朝ですね。比較的こう気温も穏やかなときに、一律の走るとかいった運動ですか、そういうことを子供たちが続けてやるって言うことで、季節季節の温度に段々慣れていって暑いときを迎える。また寒いときに入っていくって言う、体を順応させて慣らせていく機会を毎日通う学校で与えるということは大切なのかなと、別に体の視点でちょっと思っていました。

今は本当に暑いということで、クーラーを入れていただいたりということで涼しい環境の中で学習できる訳ですけども、でも、そういったところに学習環境を与えるのも大切です、そういった自然の環境の中で、体がちゃんと適応していくようにということも考えてあげると、こういった働きかけというのは大切かなというように思いました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

それではありがとうございます。またよろしくお願いします。

（2）参与報告事項

○教育長（代田昭久） それでは続きまして（2）番、「参与報告事項」お願いします。

◎参与（松下 徹） 結構です。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） （3）番「学校教育課報告事項」をお願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） お手元に「伊那谷 d e キャリア教育研修会」のちらしを配布させていただきました。

「リニア時代集まろう、語ろう、明日からのキャリア教育」というテーマで、まず第1に講演ということで平田オリザ先生を講師に「地域の未来について考える～キャリア教育の視点から～」ということでご講演をいただきます。

その後、鼎談ということで、講師の平田オリザ先生のほか、飯田市教育委員会参与、それから飯田市教育委員会の教育指導主事の3人の方々による「ふるさと『伊那谷』の未来づくりをどうすれば…」というテーマでの鼎談となります。

その後、交流会ということで、グループワーク形式で自由に意見交換の時間となりますが、ここは会場での対面交流会のほかにオンライン交流会ということで参加をできるような仕組みになっております。

日時につきましては8月10日、火曜日1時15分から、場所については「松川町中央公民館えみりあ」ですが、オンラインでの参加もできる。

申し込み方法につきましては、QRコード、あるいは裏面に参加申込書をファックス等ございます。申し込み期限につきましては、記載のとおりでございます。

主催といいますか事務局は、伊那谷自治体会議の事務局ということになりますが、もしお時間等ご都合がつけば是非ご参加のご検討をいただければということでご紹介をさせていただきます。

よろしくお願いたします。以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

伊藤課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは生涯学習・スポーツ課から資料9ページになりますが、伊勢市との小学生交流の概要がまとまっておりますので、ご報告をさせていただきます。

9ページにありますように、この交流につきましては、昨年度、飯田市で伊勢の子供たちをお迎えするという計画をしておりましたが、コロナ禍で延期ということで今年度になれ込んだというものでございますが、その3番の日程にありますように8月6日に午前中だけありますが、方法としますとZoomによるオンライン交流という格好で開催をしております。

今年度、市内の小学校につきましては、4番に記載の龍江・川路・三穂・山本・伊賀良・鼎小学校の6校でございますが、伊勢のほうでは8校から参加いただけるということで、当日につきましては、川路小学校と伊賀良小学校、それぞれAグループ・Bグループに分けてオンラインで交流という格好で開催をしております。

交流の内容につきましては、下の8番に書いてありますが、自己紹介や簡単なゲームなどをしながら、それぞれの学校・地域・児童会などの状況をそれぞれが発表するというようなことで計画をしております。

おめくりいただいた 10 ページが大まかなそれぞれのスケジュールということで記載をしておりますが、また実際の交流につきましては、また次回、また様子なんかは報告をさせていただきます。

もう 1 点だけお願いいたします。教育委員会のほうで児童・生徒・保護者向けに H a g u という情報誌を発行しておりますが、一応、夏休み前の 19 日、来週になりますが、夏休みに入る前にお配りをさせていただき予定して今準備を進めておりますので、次回の定例会のときには、またお配りをさせていただきたいと思っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「文化財保護活用課関係報告事項」をお願いします。

◎文化財保護活用課長（馬場保之） 特にございませぬ。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「公民館関係報告事項」をお願いします。

秦野副館長、お願いします。

◎市公民館館長（秦野高彦） それでは資料No.3、11 ページをごらんいただきたいと思っております。

資料No.3 につきましては、7 月 6 日の記者会見で、飯田駅前プラザ株式会社が公表いたしました「(仮称) 飯田駅前プラザ整備事業」についてと、飯田市が発表いたしました「(仮称) 飯田駅前プラザ整備事業支援及び公共空間について」のご報告をさせていただきたいと思っております。

まず、資料No.3 の 11 ページから 16 ページまでは、飯田駅前プラザ株式会社が発表した事業概要でございます。17 ページ以降が、飯田市が発表させていただいた資料となっております。よろしくお願いいたしますと思っております。

それでは、ご説明を申し上げます。飯田駅前にありました大型商業施設ピアゴ飯田駅前店が閉店をいたしまして、地域の住民の生活を支える買い物機能、飯田駅前の賑わいの拠点を失ったことに対しまして、市民の皆さんから一刻も早い後利用という声上がる中で、吉川建設株式会社様が土地建物の取得をしております。

以降、空きビルの再生利用をいたしまして、飯田駅前に賑わいを再び取り戻したいという吉川建設株式会社様の思いと、飯田市の中心市街地に対する多様な主体の思いをつないで暮

らし豊かなまちを実現するため、吉川建設株式会社様と飯田市が連携して検討を進めてまいりました。

当該ビルの整備は、吉川建設株式会社様が主な出資者であります飯田駅前プラザ株式会社様が再生を手がけるものでございまして、市も2・3階に公共施設を置くこととしまして、官民連携による計画を進めてまいりました。

公共施設につきましては、公民館の機能を中心に市民が集う学習と交流の拠点として、また飯田市のまちづくりの特徴でございます「ムトス」の理念に基づいた地域づくりについて、その活動を支援する拠点として交流と学びを促進し、新たな価値を創発する場として整備運営できるように検討してまいりました。

このため飯田市公民館が中心となりまして、生涯学習・スポーツ課、図書館、ムトスマちづくり推進課、男女共同参画課、結いターン移住定住促進室、商業・市街地活性課、企画課の担当によるワーキングチームの検討に加えまして、地域計画課と危機管理の担当も加えまして、庁内を横断的に、部局に捕らわれない検討を重ねてまいりました。また、昨年10月に立ち上げました市民ワーキング会議におきまして、具体的な活動内容や運営方法を検討してきております。

吉川建設株式会社様が誘致を進めてまいりました1階の商業施設でございますが、ツルハドラッグを誘致するということと決定をしております。地域の皆さんの要望でございました生鮮食料品の取り扱いにつきましては、精肉青果を取り扱うということになっておりまして、お話によりますと、ツルハドラッグでは県内初での精肉青果を取り扱うということでございます。

18 ページをごらんいただきたいと思っております。

18 ページは、公共空間の考え方ということで、コンセプト及び考え方をもとに整備する機能を方針に基づいて検討をしております。

「(仮称) 飯田駅前プラザに導入予定の機能」でございますけれども、飯田市公民館機能、図書館機能、平和学習機能、学習支援機能、次世代学習交流支援機能、多文化共生推進機能、内外の連携・交流推進機能等の想定をしております。さらに配置された機能を生かしまして、市民の皆さんが取り組む「ムトス」の理念に基づいた活動を支援する機能を想定しております。

導入予定の機能によって生み出されるイメージにつきましては、昨年10月に立ち上げました市民ワークにより具体的なイメージを共有し運営に生かすよう進めております。

それでは、11 ページにお戻りをいただきまして、今後のスケジュールにつきましては、右

下のところに記載のとおり予定をしております。今後も随時、進捗状況を報告させていただきます。また、本日、飯田駅前プラザ株式会社様より立体模型をお借りしてまいりましたので、定例会の終了後ごらんいただければと存じます。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「文化会館関係報告事項」お願いします。

下井文化会館館長、お願いします。

◎文化会館館長（下井善彦） 今回は特に資料はございませんけれども、いいだ人形劇フェスタについてのご報告でございます。

前回、お話ししたと思えますけれども、長野県内に限定して今年は実施するということがございます。結果的に首都圏にまん延防止、それから東京都が緊急事態とこういうことになりましたので、当初のプログラムを組んでいるともう穴だらけのプログラムになっていったという可能性もあります。そういう意味では良かったなと思っております。

それからもう1点、お知らせですけれども、フェスタのセレモニーが始まりと終わりにございます。通常ですと教育委員の皆さんにもご参加いただくということで声かけはしているんですけれども、コロナという事情がありますので、人数を絞ってやるということになっております。ですので、教育長が代表して来ていただいてというような格好でいまのところ計画しておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（8）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて、「図書館関係報告事項」お願いします。

瀧本館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

資料No.4、21 ページをお願いします。

「よむとす事業報告及び予定」でございます。「よむとす事業」報告に記載しておりますが、中央図書館は現在の建物になってちょうど40年になります。図書館の歴史としましては、飯田町の公立図書館になりましたのが大正4年ですので、今年で106年目になるんです

けれども、現在は、昭和 56 年の改築から 40 年ということで展示を行っております。改築前や改築中の図書館の写真や、この 40 年の主な出来事、新聞記事で紹介などをしておりますのでまたごらんください。

それから次に「おともだち絵本」セカンドブックプレゼント事業の実施についてということで、今年度から開始します絵本プレゼントについてご説明いたします。

飯田市では、平成 13 年から「はじめまして絵本」事業ということで 7 カ月の赤ちゃんへの絵本プレゼントを行ってきましたが、これに加えまして今年度から子供たちが本に親しむ環境の充実に向けて年中の子供さんに絵本のプレゼントを行います。

全国的には、セカンドブックという名前が一般的であるんですけども、子供たちの親しみを持ってもらって絵本が長く子供のそばにいる友達であってほしいという思いが事業の名称を「おともだち絵本」ということにいたしました。

4 歳になると絵本の主人公になって物語を楽しめるようになってきます。この時期に絵本の楽しさを体験することがその後の読書につながるということで、幼児期のプレゼントといたしました。

8 月から 12 月の間に飯田市内の保育園や幼稚園で、可能な園は図書館司書が読み聞かせを行って、年中の子供さんに絵本をプレゼントします。保育園や幼稚園に通っていない子供さんには、12 月以降に受け取っていない方を確認しまして図書館から直接ご連絡をしてお渡しします。

本日、「おともだち絵本」というパンフレットをお配りしましたが、現在、印刷中のございまして、こちら見本ですけども、開いていただきますと 16 冊の絵本を紹介しております。事前にこのパンフレットを保護者の方にお渡ししまして、この 16 冊の絵本の中から希望する 1 冊を選んでいただいてプレゼントをいたします。16 冊のうち 3 冊は、点字付きの絵本でございますのでご案内しております。

また、絵本プレゼントというだけではなくて、ご家庭で継続的に絵本を楽しんでいただくために、図書館からの団体貸出を使いまして、保育園や幼稚園からお家へ定期的に本を持ち帰っていただくということも合わせて進めてまいります。

説明は以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

久保敷副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（久保敷武康） それでは美術博物館からお願いいたします。

今日は特別陳列「東山道と伊那谷の古代仏教文化」についてということで、別紙のリーフレットをお配りさせていただいております。今週末、土曜日7月17日から8月29日まで特別陳列を実施いたします。

展示の概要については、裏面に要旨等記載してございますけれども、令和3年は伝導大師最澄がなくなってから1200年という年になりますけれども、その最澄、東山道を経て東国へ向かった後、伊那谷の仏教文化が変わってきたということを捉えまして、この企画展は、今やなくなったお寺や、その頃に創建された当地の寺院を取り上げまして、古代の伊那谷における仏教文化の特質とその伝播の過程についてお伝えするという企画でございますので、またお時間をつくってごらんいただければと思います。

また、最終日には当館学芸員によります付属事業として講演会を計画しておりますのであわせてご案内をいたします。

またレジユメにはございませんけれども、別紙、黄色い紙で8月の「びはくにゅーす」を配らせていただきました。8月は夏休み期間ということでございまして、夏休みの企画を中心に記載してございますのでごらんをいただければと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（10）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」お願いします。

久保敷副所長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（久保敷武康） 資料は23ページで、資料No.5をごらんください。

去る6月19・20日に開催いたしました飯田アカデミア第94講座について報告させていただきたいと思います。

当講座は昨年度に計画をしておりましたが、コロナ感染症の流行を鑑みまして延期をしたものでございます。流行病と江戸時代の社会というテーマで、講師また会場への参加もオンラインで行ったものです。講座の概要については、以下、記載がございましたのでまた時間があるときにごらんをいただければと思います。

続いて、第 18 回の飯田市地域史研究集会について、別紙になっておりますのでごらんください。

地域史研究集会は毎年開催をしておりましたが、昨年はコロナ禍によって中止をせざるを得なかったという状況でございましたけれども、今年は9月 11 日 12 日の両日にわたって「暮らしの中の景観—その歴史と継承—」というテーマになりまして、1 日目は先生方の講演、2 日目は地域で活躍されます方々の実践の報告をいただくという計画でございますので、また予定をいただければというふうに思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま学校教育課から歴史研究所まで報告事項がございました。この事項に関する質問、また、ご意見等あればお願いします。

伊藤委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 駅前プラザの整備事業についてです。

前回の定例会のときにちょっと触れたんですが、交通の結節点にある J R 駅前のところに中心拠点、いわゆる立地適正化計画に相当する都市計画を集中するって非常に良い案が出てそれが実現したのは喜ばしいことだと思います。

それで前回もお話しましたように、吾妻町の市公の小さなホールは来るんですけども、やはり 100 名以上、500～600 名、700～800 名のホールが中心市街地、要するに中心拠点から無くなるということになります。そして、もし高羽町に新文化会館を立て直すことになると、中心市街地に大・中のホールが無くなるということになります。私、一教育委員として J R 飯田駅前の新文化会館というのを是非お願いしたいということは常々言っておるわけですけども、やはりそうしたまちなか M I C E インフラが整った環境に、大・中・小のホールがある新文化会館というのが J R 飯田駅周辺にできないと、これは今の駅前プラザの整備事業の力というものも半減してくるんじゃないかということ、一教育委員としてその話を伝えたいと思いました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

参与のほうで今現状をちょっとお伝えしていただければ、よろしいでしょうか。

◎参与（松下 徹） 教育施設については、現在おっしゃっていただいた公民館と文化会館と鼎文化センターの 3 施設がございますけれども、これについては市の公共施設マネジメント事業、今ある現在の施設をこのまま持続的に維持をしていくことは、もう行政の体力、財政体力としても限界であるということで、これについては機能が統合配置をしていくということ

で、3つあるものを2または1施設に統合、立地配置をしていくということで、これは大きな方針として方向付けがされております。

今、文化会館については、ホール施設とするとメインの施設でございます。一般的に飯田市以外の類似施設については、大きな興行的なものを誘致して、それを鑑賞するというスタイルが多くありますけれども、飯田市の場合は、むしろ市民の皆さんの多様な舞台芸術活動の拠点的な機能を持っておりまして、そこでいろんな文化が創造されて発信をされていく、まさに創造発信拠点っていうことがありますので、そういった機能を含めて、それをどこに立地をさせていくかっていうところが今大きな課題になっています。

それで1つの考え方として、今、伊藤委員さんのおっしゃったとおり市街地、中心拠点に立地をさせて、その中でその鑑賞や舞台芸術にふれた皆さんが、その後街中を回遊されて、いろんな形で散策をされたり歓談をされたり交流されたりというそういう空間機能を中心市街地につくっていくことは1つの考え方であり、その実現の可能性については協議をまさにこれからするという事になっています。

それについては、駐車場を含めた用地確保という問題は、大きな課題としてあるものですから、そういったものが実現可能なかどうかを含めてこれからまさに検討していく事になっています。

なお、県の文化センターについては、これは新文化会館が建設された後になりますけれども、これについては、県地区の皆さんとは今分散配置をしている文化センターと自治振興センター、図書館のような機能をほかの地区と同様に一体的な複合施設化して、その中でまさに県地区の自治振興、いろんな意味での文化活動の拠点的な機能を持たせるような施設をつくっていききたいというご要望をいただいておりますので、そうした中での検討をしているところであります。

○教育長（代田昭久） 伊藤委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 先日も東野のまちづくり懇談会の後の、私ども新聞報道なんかで、一市民としてはそれを知るすべがないんですけども、市長は駐車場のことをおっしゃって、今、参与も少し触れましたが、確かにそういった懸念はあるかと思いますが、私どもが提案している考え方としては、アイパークもしくはその横の駐車場の延長上に新文化会館というのをとりあえず考えていますけれども、今、本町の踏切を渡ったところに市営の飯田駅西駐車場、平地で80台くらいありまして、それを重層化して、そうすると2層で2×8、160、3層で3×8、240。今、高羽町の文化会館の駐車場が第1から第8とか第9駐車場は全部含めると、あそこの看板の数字を計算しますと300台余りになります。高羽町に文化会館をつくっ

てから50年、半世紀、これまさにモータリゼーションの真っ只中での50年間だったわけですね。これからそれじゃその300台を上回るような駐車場が必要かどうかという、これからすぐとは言いませんが自動運転の時代がくる。あるいは車をシェアするような、それから人口減少を考えると、駐車場は300台が基本の数字になります。それから今、駐車場の重層化する話をしましたけれども、あの界限には月極の駐車場があり、今「a k i p p a」ってご存知だと思いますけれども、空いているパーキングをリアルタイムにスマホで探してやる、今すごく盛んなんですが、それを入れますと恐らく50台から100台くらいの「a k i p p a」の利用ができる、そういうようなのもあるというのを一応この正式な場でお伝えしておきます。

もう1つ駅前プラザのほうも、一応、駐車場のシミュレーションできていますけれども、中心市街地からと、あらゆる民間と公共の駐車場の数値がありますけれども、今後ちょっといきなりの言い方ですけども、今ある駅前プラザからJR飯田線を地下道で上がって来ますと、あそこに駅西広場ですね、正式に、あそこも結構平地なところがあるんですけど、あいったところも市の所有なので、うまく工夫することができれば地下道を使って有効活用できる。

そうすれば、新文化会館が先ほど言った地点にできれば、それを補完する駐車場スペースにもなるんじゃないかなと、ちょっとそんなところをお伝えしたいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 今回の伊藤委員のおっしゃった話を聞いていまして、やはり駅前がそんなふうに1つ魅力的な場所になると、子供たちが帰ってきたときに本当に良いまちになるんじゃないかなというふうに感じました。そういった話の実現していくといいなというふうに思います。

それ以外に、飯田図書館の「おともだち絵本」のほうを見せていただきました。本当にありがとうございます。この中の絵本、本当にどれも、たくさん私も子供に読んで思い出深い良い絵本ばかり、さすが図書館の司書の先生方が選んでくれたなと思いました。

子供たち、繰り返し繰り返し、読んでくれ読んでくれという、それをとっても面倒に思う親御さんもいるかもしれないけれども、繰り返しが大事なんだよということを是非お伝えしていただいて、この本を渡していただけたらなというふうに願います。

ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございました。

（11）今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程についてお願いします。

櫻井係長、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） それではレジュメの3ページをお開きください。

（11）今後の日程でございます。

7月28日水曜日9時から第1回総合教育会議がございます。会場はこの部屋で行いますのでお願い致します。

8月2日月曜日13時30分から市町村教委と県教委との懇談会がございますが、教育長及び教育長職務代理の2人でご参加お願いしたいと思います。

8月18日水曜日15時から8月の定例会がございますのでお願いします。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。ご質問ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） 日程第10、以上をもちまして、7月の教育委員会定例会を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。

閉 会 午後3時15分